

ファンドを資金に、今までの活動の一步先へ！ H29年度 助成団体決定！

3月18日（土）ひらつか市民活動センターで、「公益信託ひらつか市民活動ファンド」公開審査会が開催され、今年度の助成対象団体が決定しました。このファンドは平塚市内で行われる市民活動を資金面で支援するもので、各コースの助成総額は入門コース50万円、発展コース150万円、29年度より新設する組織基盤整備コース100万円です。

応募は入門コースに3団体、発展コースに4団体、組織基盤整備コース4団体でした。ファンド運営委員が申請書と公開プレゼンテーションから総合的に審査を行い、入門コースは3団体に計28万円、発展コースは3団体に計68万円、組織基盤整備コースに計80万円、合計176万円の助成が決定しました。

◇入門コース助成団体とコメント

助成額：1団体10万円まで(助成限度額50万円)

団体名	助成事業	申請額	助成額
NPO 法人 NPO 教育かながわフォーラム	子ども及び中高年市民を対象とする体験型講演会	10万	10万
子ども学習支援グループ 須賀の寺子屋	子どものための学習支援教室	8万	8万
カベラ日本語の会	事業継続の基礎作りと最近のニーズに合った事業の強化	10万	10万
入門コース 助成合計額			28万



NPO 法人 NPO 教育かながわフォーラム

初めての申請で戸惑うこともあったが、他団体の発表を参考にしたり、委員のアドバイスを受けて、勉強になった。まずは申請事業をしっかりと行っていきたい。



子ども学習支援グループ 須賀の寺子屋

広報のチラシ作りして、まずは活動を知っていただきたい。活動してくれる大学生を現在募集している。お互い有益な活動になると思うので、頑張っP Rしたい。

自分たちの活動に非常に危機感を感じていたが、立ち位置をもう一度見直せた。計画事業を着実にやっていきたい。共生社会を目指し、積極的にやっていきたい。



カベラ日本語の会

◇発展コース助成団体とコメント

助成額：1団体50万円まで(助成限度額150万円)

団体名	助成事業	申請額	助成額
親と子の寺子屋 ふれあい自遊塾	親向け研修会、講演会、親子テーブルゲーム大会、ゲーム貸し出し事業	20万	17万
湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会	吉沢八景活用事業	50万	30万
湘南ひらつかビーチクラブヨット部会	初級ヨット教室開催	21万	21万
発展コース 助成合計額			68万



親と子の寺子屋 ふれあい自遊塾

昨年は落選して今年は申請するか迷った。実際に参加してくれる親子、思春期になって様々な個性のある子たちを目の当たりにしていたので、思い切って申請してよかった。地道にやっていきたい。

初めての申請で受かってよかった。広報は多方面でぜひ協力していただきたい。一方で高齢化も進んでいる。新しい風を呼び込みたい。また安心して観光できる環境を整えていきたい。



湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会



湘南ひらつかビーチクラブヨット部会

広報活動に力を入れたい。これからも安全なビーチにしていきたい。

助成を受けることができなかったが、申請することによって細かい計画を立てることができた。他団体のことも知る良い機会となった。



湘南クリエイターズプロジェクト

◇組織基盤整備コース助成団体

団体名	助成事業	申請額	助成額
馬入水辺の楽校の会	NPO 法人 暮らしつながる・森里川海の運営体制の確立	20万	20万
NPO 法人 ワーカーズコレクティブ きしゃぽっぽ	放課後デイサービス事業における支援向上のための環境整備事業	20万	20万
NPO 法人 湘南 NPO サポートセンター	Webライターを養成し情報発信力の強化を図る	20万	20万
NPO 法人 ぜんしん	人材不足解消に向けた情報発信強化ならびに中・長期ビジョン策定を目的とする基盤整備事業	20万	20万
組織基盤整備コース 助成合計額			80万



NPO 法人 ワーカーズコレクティブ きしゃぽっぽ



馬入水辺の楽校の会



NPO 法人 ぜんしん



NPO 法人 湘南 NPO サポートセンター

◇運営委員からのアドバイス

「信頼」はどうやって得られるか。会計処理は重要。なんのために、だれのために、どうしたいか。自分たちで話し合いながら決めていくこと。これをしないと継続できない。どうしたら収益をあげられるか考えてほしい。センター等を使いながら、まずは多くの方に活動を知っていただくことが大事。

申請することで活動を見直すことが大事。そのプロセスを大事にしてほしい。カベラ日本語の会のようにポストイットを使いみんなで考えたことが見えることは結果よりもすぐ大事。見える化を進めてほしい。

限られた時間で自分たちの思いを伝えることが重要。そのために何を伝えたいか自分たちで考える。先日、ボランティアをした高校生・大学生と交流したとき「助けてあげることがボランティアと思っていたが、逆だった。みんなからありがとうと言われて、これはもうやめられないと思った」という感想が多く挙げられた。後継者不足に悩む団体が多いが、日本の若者にもこういう子たちがいることを忘れないで、みなさんも地道に活動を続けてほしい。

この場で仲間からノウハウをもらえる。自治会でも市民活動として地域全体に広がるのがよいこと。そのノウハウを全市民に広げていって「おらが街」として活発化してほしい。

候補団体審査表 (入門コース)		助成審査定表 (入門コース)	
No	団体名	No	団体名
1	カベラ日本語の会	1	子ども学習支援グループ
2	NNPO法人 須賀の寺子屋	2	カベラ日本語の会
3	かながわボランティア教育	3	かながわボランティア教育
4	須賀の寺子屋		
5	カベラ日本語の会		
6	かながわボランティア教育		
7	カベラ日本語の会		
8	かながわボランティア教育		
9	カベラ日本語の会		
10	かながわボランティア教育		



◇藤巻運営委員長長の講評



熱く語っていただけた。新しいアイデアや手法等はもちろん必要ではあるが、社会の問題とは継続されるもので、普遍的なものでもあると思った。全員が社会のことをよくしたい、解決しようという人が集まっている。誰の為かというと、自分のため、家族のため、社会のため。さらにはこれからの若者のためでもある。でもその若者がなかなか市民活動では見えないのが残念。だから大学生をもっと使ってほしい。大学教員をしていて一番楽なのは専門分野をゼミで教えること。しかし学生にとって一番力がつくのは社会に出て問題を考え解決すること。それをした学生は発想が違う。どうにかしようと考えられる。そういう経験を地域でしてほしい。また、オンラインでのつながりは今日、国際的にも重要だが、日本は少し遅れている。市民活動でもweb等を使用することで、さらに参加者を広げられるのではないかな。